

令和6年度 第2回まちづくりミーティング

日時：令和6年12月23日（月）14：00～15：00

場所：ハピネスふくちやま3階（男女共同参画センター） 女性活動支援ルーム

団体：京都府女性の船「ステップあげぼの」

○主な話し合いの内容

市長： 女性の船の皆様とは5年前にもこのまちづくりミーティングを実施させていただいており、非常に意義のある時間を過ごさせていただいた。

今年は元日に能登半島での地震が発生し、本市からも123人の市職員が応援に行かせていただき災害対応について改めて考えることとなった。この災害対応については、避難所をはじめ女性の意見は非常に重要であると考えており、今後多くの意見を聞かせていただきたいと考えている。

【意見交換】

団体： まず、介護について夜の時間帯など旧三町や山間部では対応してもらえないこともあった。市内どこでも同じサービスを受けられるようにしてほしいと考えている。ケアマネージャーの方も場所によって対応が違っているように思う。

市長 介護ヘルパーの派遣については、夜間対応型訪問介護事業所がないため、場所にかかわらず福知地山市内ではサービスを受けることができない。ただ、一定の条件はあるものの訪問看護を利用することで、夜間の利用が可能でそれは地域によって差はないと聞いている。また、ケアマネージャーについては、ケアプランを作成する方であるので、対応までお願いすることは難しいと思う。

団体： 実体験でどうしても地域差を感じてしまう。内容の説明も担当課で聞けるようにしてほしい。

市長： なぜ難しいのかなど内容まで説明するように担当課には伝えるにする。

団体： 大江分院になるが、住んでいる地域内で急病者が発生した際に電話でまず病院に指示を仰いだことがある。その際に「その症状なら救急車を呼んでも来ないのでは」と言われた。実際には救急に電話をし、救急車に来てもらえたからよかったが、そのようなことはあり得るのか。

市長： 当日の電話のやり取りは聞いていないので意見できないが、救急車は必要だと思ったら迷わずに呼んでいただきたい。非常に心配だったと思う。また市の施策で「安心見守り事業」も提供しているので、ぜひご検討をいただきたいと思う。

団体： 近隣市の方からも福知山市民病院に受け入れてもらえたという話も聞く。他市にも誇れる病院をめざしてほしい。

- 団体： 5年後には高齢化が一層進み、バスの乗車率も上がるのではないかと予想しており、公共交通機関は必要になる一方だと考える。
- 市長： 乗り合いタクシーを実証実験で行っていた地域もあったが、利用者は伸び悩み「乗り合い」にならないこともあったと聞いている。様々な移動方法を考えていく必要があると感じている。
- 団体： 福祉タクシー券の利用もできるが、通院回数が多かったりすると、病院に通うだけで券がたりなくなってしまうことも多い。病院へ向かうバス路線も考えてほしい。例えば「病院の曜日」を決めておき、地域内の病院に行く方たちが乗り合わせていくバスを走らせるとかも考えてほしい。地域内で頼ることができる人がいると、どうしても負担になることもある。
- 市長： 市バス路線については、乗降調査を行うなど実態に合わせた編成も行っているところであるが、意見も参考にさせていただく。
- 団体： また大江分院の話になるが、様々なステージの患者の方同士が同室になることもあり、例えば排泄と食事がカーテン越しに同時にされることもあると聞く。
- 市長： 高齢化が一層進む中でどこの病院でという枠組も超えて、市内や地域間でも協力しながら考えていく必要があると考えている。

